

MY FAVORITE BOOK

「そして、バトンは渡された」

このコーナーでは、榴岡図書館スタッフの「Favorite(お気に入り)」な作品や作家を紹介します。

「家族になるために必要な条件とはなんだろう」
そんなことを考えさせられる一冊でした。主人公の優子は、幼い時に母親を亡くし、父親と暮らしてきました。しかし父の海外赴任を機に、彼女は父の再婚相手の継母と日本で生活することを選んだのです。その後も環境が次々と変わり、彼女には17歳にして、2人の母親と3人の父親がいるのです。まさに血の繋がらない親の間をリレーされながら生きてきたのです。

内容だけ書くと「複雑な環境で育った主人公は、さぞドロドロな人生を歩んできたのだろう」と邪推するかもしれませんが、この話は全くそういったものはありません。最初から最後まで「あたたかさ」や「思いやり」にあふれている作品なのです。

持って生まれたものなのか、親が次々と変わるといふ特異な環境から得たものなのか、とにかく主人公の女性は芯が強いのです。物事を冷静に客観的に見れる強さ、そして受け入れる強さがあります。例えば、友人やクラスの数人から無視されても、冷静に状況を判断・分析し「今ここで騒いでも、彼女たちを喜ばせるだけだ。きっと時間が解決してくれる」と達観した態度を取り続けました。

そのような主人公の強さと、彼女の周囲の人々から真っすぐ注がれる愛情によって、この温かい物語は綴られていきます。

物語の中で印象に残った言葉があります。主人公の2番目の母親が言った言葉です。「子どもを持つということは、明日が二つになるということ。自分よりもたくさんの可能性と未来を含んだ明日があるということ。」この言葉で私の冒頭の疑問は解決しました。「家族になるために、無償の愛とか血の繋がりとか、そんな堅苦しい言葉なんて必要ないのだ」と思わせてしまう強い言葉でした。

主人公の家族が変わる度に、それぞれの想いを乗せて、リレーのようにバトンは繋がれていきました。

「誰かにバトンを渡して、誰かがそのバトンを繋げていく。自分が渡したバトンで、誰かが少しでも幸せになって欲しい」そんなことを素直に思える「あたたかさ」や「思いやり」に溢れた1冊でした。

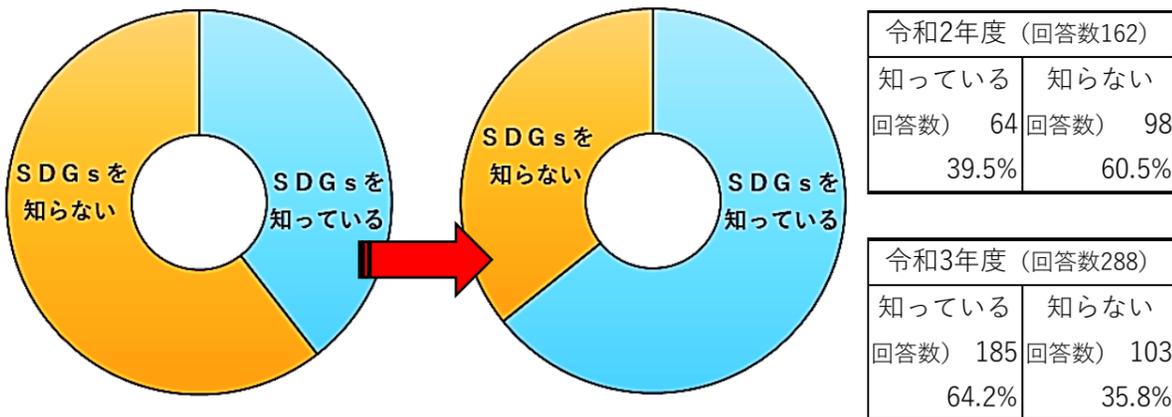


SDGsを知っていますか

榴岡図書館では、昨年と今年、SDGsの認知度に関するアンケートを実施しました。今年度はアンケート期間が短かったのですが、昨年度以上の投票があり、関心の高さがうかがえます。

昨年度は「SDGsを知らない」という回答が多かったのに対し、今年度の結果では逆転し、回答者の6割以上が「SDGsを知っている」とお答えになりました。SDGsについては、公共機関をはじめ様々なところで周知や啓蒙のための取り組みが行われています。

令和2年3月27日～5月27日 令和3年5月28日～6月23日



榴岡図書館では、昨年度からSDGsに関する展示を実施するとともに、SDGsに関する装飾やSDGsに関するコーナーを設置しています。今年もまだまだSDGsに関する展示やイベントを行う予定ですので、お楽しみに。

SDGsのコーナー以外にも関連書がありますので、ぜひ榴岡図書館にご来館ください。

<関連資料>

- 「知っていますか？SDGs」日本ユニセフ協会／制作協力 さ・え・ら書房 2018.9
- 「コーヒーで読み解くSDGs」José・川島良彰／著 ポプラ社 2021.3

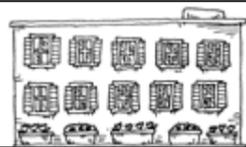


仙台市図書館のTwitterでは、榴岡図書館をはじめ、仙台市図書館に関するイベントや、展示の情報などをつぶやいています。気軽にフォローしてください。

アカウント名
@sendai_lib



仙台市榴岡図書館 柴田 雅子



発行：仙台市榴岡図書館
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8 パルシティ仙台 4F ☎295-0880

- <関連資料> 「その扉をたたく音」瀬尾 まいこ／著 集英社 2021.2
- 「ファミリーデイズ」瀬尾 まいこ／著 集英社 2017.11